

リサイクル又は廃棄処理を委託する場合の流れ

事業系一般廃棄物

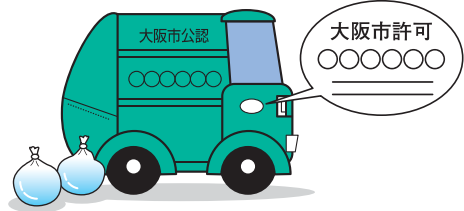


一般廃棄物の収集運搬業許可を有する業者に委託しなければなりません。
(廃棄物処理法第6条の2第6項)



契約した一般廃棄物収集運搬業許可業者が事業系一般廃棄物を収集します。排出する際は中身の見えるごみ袋を使用してください。

収集車両には大阪市許可のステッカーが貼付されています。



(リサイクルの場合)

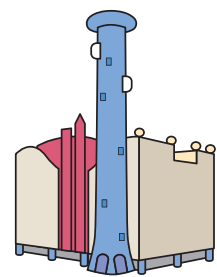


リサイクル施設に搬入されリサイクルされます。

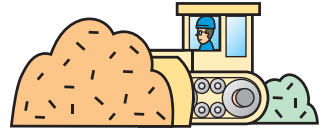
リサイクル品

(焼却処理の場合)

大阪市の処理施設に搬入され、焼却されます。



焼却灰は大阪市の北港処分地や大阪湾フェニックスセンターへ運ばれ、埋立処理されます。



産業廃棄物

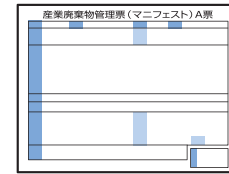


産業廃棄物処理業の許可を有する業者に委託しなければなりません。
(廃棄物処理法第12条第5項)

委託契約は書面で行う必要があります。

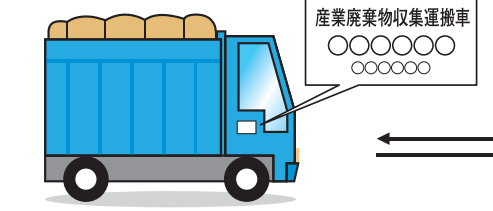
契約した産業廃棄物収集運搬業許可業者が産業廃棄物を収集します。

引き渡す際には、産業廃棄物管理票(マニフェスト)を交付しなければなりません。

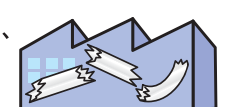


マニフェストの流れ

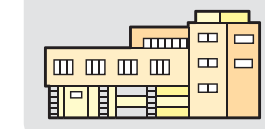
収集車両には「産業廃棄物収集運搬車」と表示されています。



産業廃棄物処分量の許可を有する業者の施設に搬入され、破碎、切断、選別、焼却等のさまざまな方法で中間処理されます。

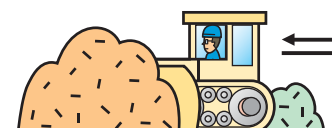


(リサイクルの場合)



リサイクル品

中間処理後、出てきたごみは埋立処分場へ運ばれ、埋立処理されます。



処理委託契約

排出

収集・運搬

リサイクル又は中間処理

最終処分

※ごみの持ち込み処理について

大阪市内の事業者の方で、自ら、焼却工場にごみを持ち込み、処理を希望される場合は、事前にご予約のうえ、有料で焼却工場に持ち込むことができます。詳しくは、(<http://www.city.osaka.lg.jp.kankyo/page/0000007810.html>) をご参照ください

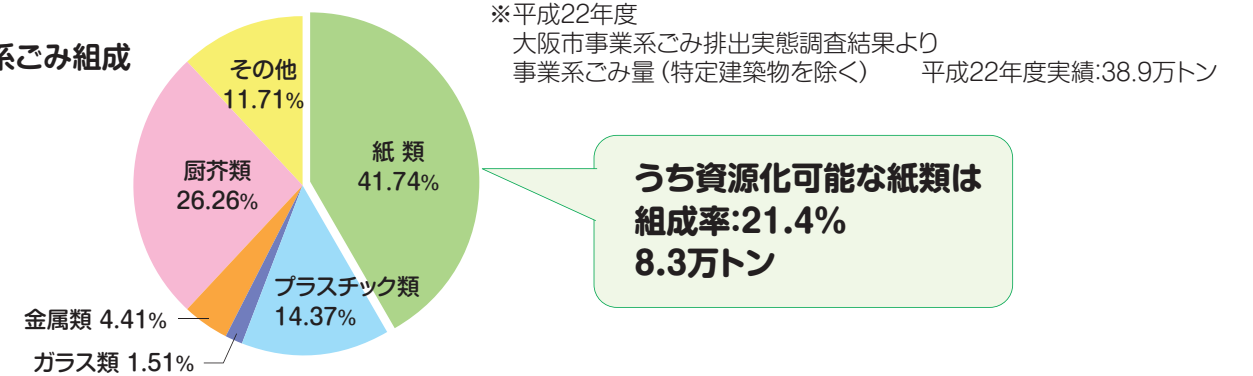
古紙のリサイクルについて

現在、大阪市の焼却工場で処理される事業系ごみの約41.7%が「紙類」でそのうち資源化可能な紙類が約21.4% (8.3万トン) 含まれていると考えられます。

このような状況から大阪市では平成25年10月1日から資源化可能な紙類の焼却工場への搬入を禁止し、事業者のリサイクルに向けた取組を促進します。

「地球環境の保全」「限りある天然資源の有効活用」といった観点から、積極的に紙ごみの減量とリサイクルに取り組みましょう。

■事業系ごみ組成



事業所での資源化可能な紙類の処理方法

処理方法

①許可業者へ回収を依頼しリサイクルする



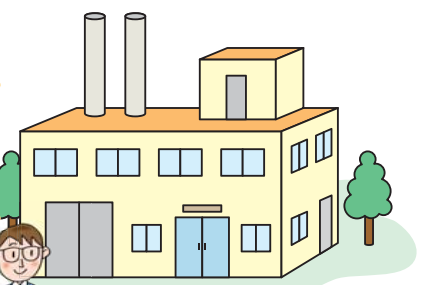
②再生資源事業者(リサイクル事業者)へ回収を依頼しリサイクルする。



③自ら再生資源事業者(リサイクル事業者)へ持ち込む。



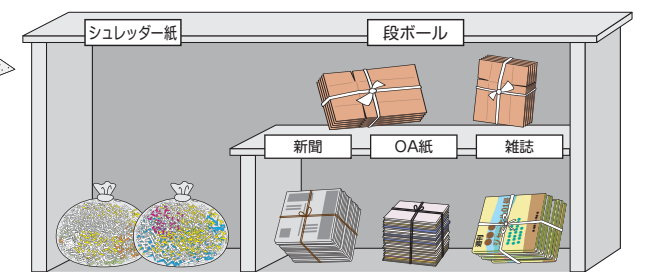
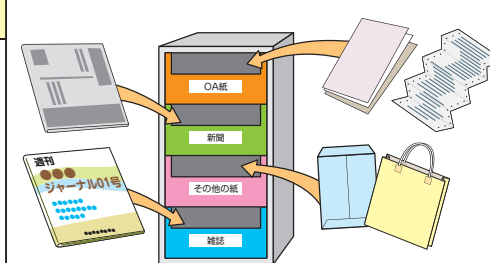
再生資源(リサイクル)事業所



分別方法

分別区分の例示

- 新聞
- 段ボール
- OA紙
- 雑誌
- シュレッダー紙
- その他の紙



社員、テナント会社に周知し分別排出

- 分別方法、回収方法、回収量は許可業者又は再生資源事業者(リサイクル事業者)とよく相談してください。
- 分別方法を決定し、分別容器と設置場所を確保しましょう。
- 分別方法やリサイクルに向かない紙(P8参照)について、社員・テナント各社に周知徹底してください。